

アーチェリー・関東学生リーグ

2年ぶりブロック優勝

全日本学生王座決定戦出場へ

3月30日から5月5日まで、関東学生アーチェリーリーグ戦が各大学アーチェリー場で行われた。専大の男子は5戦全勝で2年ぶり7度目のブロック優勝を果たし、全日本学生王座決定戦の出場権を獲得した。

Bブロックの専大は初戦の明大戦に3784-3760で勝利すると勢いに乗った。続く拓殖大戦では3917-3759と快勝。続く学習院大戦、早大戦も勝利し、迎えた最終戦の相手は前年度優勝の日本工大。ここでも集中力を切らさず3913-3826と接戦



左から2人目が中田主将

バドミントン・関東大学春季リーグ

前季上回る2位

今関満夫監督は「今年は練習場整備で十分な練習ができず心配したが、ブロック優勝できて良かった。王座決定戦ではメダルを持ち帰りたい」と話した。また中田翔主将(経営4・敬和学園高)

も「王座決定戦では決勝に進み学生日本一を取りたい」と意気込みを語った。なお、女子は2部Bブロックを5戦全敗で終えたが、筑波大、帝京大との2、3部入れ替え戦を1位で通過。2部残留となった。

(湯澤時生・人間科学3 || 写真も)



▲標準障害飛越競技で完璧な騎乗を見せた見目主将

馬術・東都学生大会

団体総合で3位

東都学生馬術大会(4月11-13日、JRA馬事公苑)で専大は団体総合成績で3位となった。

今大会は新人障害飛越競技、新人馬術競技、学生賞典馬場馬術競技、複合馬術競技、標準障害飛越競技の5競技が行われ、総ポイントで争った。新人障害飛越は山本開智(経営1・つくば開成高)・ソレイユドゥヴァ(商3・宝塚高)・ラビ減点0の演技で1位に



▲チームを引っ張った浦谷主将(左)・篠田ペア

4月26日から5月5日まで、関東大学バドミントン春季リーグ戦(女子)が日体大健志台キャンパス米本記念体育館で行われた。専大は4勝1敗で昨年秋季の4位から順位を上げ、2位となった。

初戦でリーグ戦3連覇(今季含む)の法大にス

トレート負けを喫する。しかし「初戦を落としたことで負けたくない気持ちが増し、残り4戦にいい影響を与えてくれた」と浦谷夏末主将(商4・尚志高)が話すように、残り試合は失ゲーム数も3ゲームと好試合を見せた。

今年のチームを「一人ひとりが責任を持って戦えるチーム」と浦谷主将は言う。昨年からのチーム

輝き、団体も優勝した。

同日に行われた東都トナメントは優勝。青柳創也(経済3・八幡中央高)が最優秀選手賞を受賞した。また、13日のリースホースカップではルーカーながら山本が優勝を飾った。

見目主将は「1年次生の力が発揮された大会だった。6月の関東学生馬術競技大会に向け、修正する部分は修正して自信をつけていきたい」と語った。(齊藤麻利奈・経営2 || 写真も)

アイスホッケー・関東大学選手権

8位に終わる

4月7日から29日まで、関東大学アイスホッケー選手権が西東京市の



▲DF陣がゴールを死守

ダイドードリンクアイスアリーナで行われた。専大は昨年より順位を上げ、8位で大会を終えた。

初戦で対戦した日体大は昨秋の関東大学リーグ戦1、2部入れ替え戦で敗れた因縁の相手。実力大は昨年より順位を上げ、8位で大会を終えた。2度で勝利を収めた。2点ずつを挙げた福島健一(経済1・北海高)と吉真も)

“神の左”さく裂

6度目の防衛

OBの山中さん

4月23日、大阪城ホールでボクシングのWBC世界バンタム級タイトルマッチが行われ、チャンピオンの山中慎介さん(平17商)が、長谷川穂積(平17商)と対戦し、TKO勝ちで6度目の防衛に成功した。

山中さんの「神の左」がさく裂した。得意の左からの攻撃を中心に序盤から積極的に攻め、世界ランキング3位のシユテファージュ・ジャモエ選手(湯澤時生・人間科学3)

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

六回、ジャモエ(左)を激しく攻める山中
大阪城ホールで2014年4月23日、小松雄介氏撮影 毎日新聞社提供



No.338

大会結果 予定は体育会ホームページ 専大ホームページ スポーツからアクセスで確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com) 大会結果を配信いたします